

【大学・地域共創プラットフォーム香川】
令和4年度第2回就職・産業振興部会 議事要旨

開催日時：令和4年6月14日（火）13：30～15：20

開催方法：web 会議（Microsoft Teams）

議題事項

1. 就職・産業振興部会におけるご意見・ご要望等について（議題資料1）

就職・産業振興部会におけるご意見・ご要望等について、議題資料1に基づき、各部会委員から以下のとおり報告及び意見があった。（※要旨を抜粋して記載）

【企業・自治体の取組報告について】

（香川経済同友会）

・香川県内企業における人材の不足状況および採用活動に係るアンケート調査（2019年8月～10月）の結果について、参考資料1に基づき報告があった。企業が必要としている人材としては、30歳代、理系の大卒専門職の割合が高く、新卒採用においては、就職サイトへの掲載が効果的であるとのことであった。また、調査当時、今後の検討課題としていた項目のうち、遠隔による面接・WEBを活用した会社説明会の促進については、期せずして、コロナ渦において実現されたとのことであった。またU・Iターンを増やす方策として、高校生に対する地域課題や地元企業・産業についての教育機会の確保（出前授業）などについては、引き続き取り組んでいる状況とのことであった。

（香川県中小企業団体中央会）※委員欠席のため、幹事から報告

・高校1・2年生を対象とした、香川県内の中小企業訪問バスツアーを平成31年3月と令和2年3月に実施したことについて、参考資料1に基づき報告があった。

（香川県）

・6月に実施されたかがわーくフェアについて、参考資料1に基づき報告があり、120名ほどの参加者のうち、40名近くが外国人であったこと、二極化が進んでおり、この時期に内定を得ている者が一定数いること、開催時期についての検討を要すること、事務職を探す学生がほとんどであったことなどについて報告があった。

また、事前に四国学院大学からいただいたご意見として、合同就職面接会の「面接」という言葉が、学生を身構えさせる一因になっているのではないかと、幹事から意見紹介があった。

（高松市）

・「第2期たかまつ創生総合戦略」における中小企業等の育成と振興に係る施策について、参考資料1に基づき報告があり、中小企業のUターン人材を含めた労働力確保の促進や香川県、高松商工会議所と連携した合同就職説明会開催に係る取り組みについて紹介があった。

【企業側の就職・産業振興に関する意見等について】

(香川県商工会議所連合会（高松商工会議所）)

- ・学生の企業認知に係る課題として、就職活動中の学生にどのようなアプローチが有効なのか把握すること、就職先候補企業として、就活前に学生の選択肢に入ること、大学等のキャリア支援担当者に企業情報や業界のことを知っていただくことが挙げられる。また、学生が何を基準に就職先を決めているのか、学生が欲しい企業の魅力は何かを理解したうえで、学生に的確な情報が伝われば、地元就職につながるのではないかと考えている。

(香川県中小企業家同友会)

- ・3年前から、三木高校と連携して、高校1年生を対象に共有型インターンシップを展開している。従来型インターンシップの視点と異なるのは、ジョブシャドウイングといって、経営者の影となって共に動くことにある。経営者の考え方や社員の思いなどを吸収し自身の成長につながるということで、高校の教員方から高い評価をいただいている。

(香川県農業協同組合中央会)

- ・保護者対策を引き続き行っていくことに加えて、6月9日付の四国新聞の記事にあったように、ほとんどの学生は県外就職と県内就職を両天秤にかけているので、学生が県内就職に向かわないのであれば、その原因を探ることが必要でないか。また過去の日経新聞記事にもあったように、国の地(知)の拠点大学による地方創生推進事業に5年間取り組んだとしても、県内就職率向上に係る目標値を達成できなかった事例がある。このようなことも踏まえて、本プラットフォームを前向きに進めていきたい。

(香川県漁業協同組合連合会)

- ・就職サイトを活用して職場説明会にエントリーしてもらっているが、令和3年度、4年度はある程度のエントリーがあったものの、令和5年度採用はエントリーが極端に少なかった。また、近年の採用者は、定着率が低い傾向があり、県内外の事業所勤務を問わず、早い時期に退職を判断する事例が見られ、大卒、高卒、また男女を問わない傾向にある。

(香川県銀行協会)

- ・某地元銀行の人事部にヒアリングしたところ、採用現場の肌感覚としてUターン学生が著しく減少していること、売り手市場のため、地元に戻ってこないこと、銀行の一般職の採用がなくなったことにより、学生の応募が減少しているとの報告を受けている。

【学生が求める企業の魅力について】

(四国学院大学)

- ・2021年度卒業生アンケートの集計結果について、参考資料2に基づき報告があり、就職先を選択した理由として、仕事内容や勤務地に係る割合が高いこと、転職・離職の理由としては、人間関係、仕事が合わないといった割合が高いとのことであった。また、在学中に有意義だった経験はアルバイトという回答が多く、在学中にやっておけば良かったことは資格取得という回答が多く見られた。

(香川大学)

- ・令和3年度学生生活実態調査報告書について、参考資料2に基づき報告があり、創造工学部と農学部については大学院進学と就職とで迷う傾向にあること、希望する職業分野について、法学部・経済学部の公務員希望が増加傾

向にあるとの結果であった。また、職業選択にあたって重視することは、自分の能力や適性に合っていることや業種・仕事内容の割合が高いことがあげられる一方、自分が何に向いているかわからないという回答が多いことも特筆すべき点であるとのことであった。学生から大学側への要望事項としては、面接対策やエントリーシートの書き方の実践指導へのニーズが高く、学生が自分自身で適性を見つける力が弱くなっていると感じているとのことだった。今後の当該調査においては、企業の魅力についてどう考えているかといった内容を盛り込んでいくことを検討したい。

(高松大学)

- ・学生への調査は、現在データ作成中のため、追って送付する。

(徳島文理大学)

- ・就職に対する満足度調査は行っているが、始めたばかりで今回公開できなかった。また、県内企業の採用スピードが遅いと感じている。本学としては、基本的に香川県内の企業を勧めているが、3週間経っても企業から結果連絡が来ないケースがあった。選考の際は、結果連絡のスピードが早ければ早いほど、自分に対する必要度が高いと、学生は感じると思う。一連の採用プロセスをスピーディに実行しないと、県内定着への足枷になる。

(香川短期大学)

- ・学生に対するアンケート調査は長年に渡って行っている。本学は県内の中規模企業を目標にしているというより、小さい企業に行きたいという学生が多いと把握している。仕事の内容、収入はそこそこあればいい、勤務地は県内、福利厚生充実が本学学生の選択肢になっている。大きい企業は敬遠する傾向にある。そのような中で、県内就職率は85%程度となっている。

(香川大学)

- ・学生自身が適性を把握していない中で、企業PRとして、求める学生像、仕事内容、勤務時間、休暇、福利厚生、給与、企業の将来像などを示しながら、企業側から大学、学生に伝えるスタンスが重要と感じている。

【就職・産業振興部会ホームページについて】

- ・参考資料3に基づき、部会ページの設置を検討している旨の紹介があり、委員の方からもご意見をいただくとともに、事務局の方でもニーズを吸い上げ、研究者検索ページのほか、部会の活動内容等を一般の方々にもご覧いただけるように構築していきたいとの説明があった。

2. 就職・産業振興部会における指針（案）について（議題資料2）

就職・産業振興部会における指針（案）について、議題資料2のとおり案が示され、審議の結果、「Ⅱ-3. 地域や企業における労働力増大に向けた取組」に係る項目を削除することとし、いただいたご意見等を踏まえ、幹事・副幹事を中心に取りまとめたうえで、運営委員会に報告することとした。なお、部会における今後の具体的な取組については、部会の下にプロジェクトチームなどの設置を検討することとした。その他、委員から出された主なご意見は以下のとおり。

(土庄町)

- ・小豆島は人口減少の影響が顕著で、UIJ ターンによる人口増加以上の人数が流出している。WEB からの求職があっても、小豆島の求人条件は不利で、本土以上に深刻な状況である。

(香川県商工会連合会)

- ・商工会連合会の事業者においても、知名度が低く、大企業と比べて就職先として選ばれないという課題がある。

(香川経済同友会)

- ・「Ⅱ－３．地域や企業における労働力増大に向けた取組」について、削除してもよいのではないか。「労働力の増大」という表記が、現場のイメージと異なる。人口減少を前提とした取組が必要である。

(香川短期大学)

- ・旧大学コンソーシアム香川における事業で、かがわーくフェアとの共同開催で実施されたキャリア支援研修会について、今年度も同様に進めてよいか。昨年度のキャリア支援研修会は、各大学が協力していく体制であり、香川短期大学が窓口となっていた。今年度からは、プラットフォームの事務局が香川大学なので、窓口は香川大学になる。香川大学の方で考えていただけるのか、コンソーシアムの流れを受けて香川短期大学がしなければならないのか、回答をいただきたい。

(香川大学)

- ・キャリア支援研修会は部会として行うことなので、時間をいただきたい。事務局で関係各所と連絡を取り合いながら、検討させていただきたい。

※キャリア支援研修会について

→部会終了後の調整にて、幹事と香川短期大学を中心とした関係者チームで、別席を設けて打合せを行うこととした。

→6月24日（金）13時～14時、香川大学に関係者が参集して打合せを行った結果、昨年度からの私立大学を中心とした枠組みを基本として、部会の中にプロジェクトチームを立ち上げることとした。また、かがわーくフェアの開催日程とは異なる日程で開催する方向で調整することとした。